

## 「ファリサイ派の人々と律法学者たちを非難する 2」 2015年08月20日

ルカによる福音書 11章 45節～53節。そこで、律法の専門家の一人が、「先生、そんなことをおっしゃれば、わたしたちをも侮辱することになります」と言った。イエスは言われた。「あなたたち律法の専門家も不幸だ。人には背負いきれない重荷を負わせながら、自分では指一本もその重荷に触れようとしないからだ。あなたたちは不幸だ。自分の先祖が殺した預言者たちの墓を建てているからだ。こうして、あなたたちは先祖の仕業の証人となり、それに賛成している。先祖は殺し、あなたたちは墓を建てているからである。だから、神の知恵もこう言っている。『わたしは預言者や使徒たちを遣わすが、人々はその中のある者を殺し、ある者を迫害する。』こうして、天地創造の時から流されたすべての預言者の血について、今の時代の者たちが責任を問われることになる。それは、アベルの血から、祭壇と聖所の間で殺されたゼカルヤの血にまで及ぶ。そうだ。言うておくが、今の時代の者たちはその責任を問われる。あなたたち律法の専門家は不幸だ。知識の鍵を取り上げ、自分が入らないばかりか、入ろうとする人々をも妨げてきたからだ。」イエスがそこを出て行かれると、律法学者やファリサイ派の人々は激しい敵意を抱き、いろいろの問題でイエスに質問を浴びせ始め、何か言葉じりをとらえようとねらっていた。

主イエスはファリサイ派の人の食事に招かれた時に、ファリサイ派の人々は律法を厳格に守っている自分たちを清い者としているが、内側は強欲と悪意に満ちていると、彼らの偽善を厳しく非難された。これを聞いた律法の専門家の一人が「先生、そんなことをおっしゃれば、わたしたちをも侮辱することになります」と言った。民衆の上に君臨していた彼らは聞いたことがないような非難の言葉に逆上したのである。すると、主イエスは「あなたたち律法の専門家も不幸だ。人には背負いきれない重荷を負わせながら、自分では指一本もその重荷に触れようとしないからだ」と輪をかけて非難された。彼らは律法の専門家として、民衆に律法を教え、守れと強要していたが、律法を守れない民衆の重荷を担うために指一本貸さず、傲然としていた。この言葉には民衆と苦しみを分かち合う主イエスの姿勢が表れている。共にあるということは、パウロがローマ書 12章 15節で「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい」と語っていることを実践することである。

主イエスは更に「あなたたちは不幸だ」と続けられた。あなた方は先祖が殺した預言者たちの墓を建て、敬意を払っているつもりでいる。過去の預言者たちの真実を理解していると言いながら、目の前の主イエスの真実が見えない。「わたしは預言者や使徒たちを遣わすが、人々はその中のある者を殺し、ある者を迫害する」と言われているように、多くの義人が殺されてきた。アベルはカインによって血を流し、ゼカルヤは神殿の庭で石打ちされた。殉教者たちが流した血の責任を、今の時代の者たちは問われている。信仰の知識の鍵を取り上げ、自分たちが神の国に入らないばかりか、他の人が入ることをも妨げていると独善性を指摘した。

主イエスは出て行かれたが、激しい非難の言葉を浴びせられたファリサイ派の人々、律法学者たちは主イエスに敵意を抱き、質問を浴びせ、言葉じりを捕えようとねらうようになった。彼らは自らが正しいとして築いてきた宗教性と体制が否定され、主イエスに対する怒りは膨れ上がった。神への砕かれた信仰が愛の真偽を見分けることを可能にするのである。